

全学統一入試

(中 期)

国 語

令和 8 (2026) 年度

試験学科
経営学科
ホスピタリティ・マネジメント学科
データサイエンス学科
経済学科
法律学科
国際関係学科
多文化コミュニケーション学科
現代社会学科
健康スポーツ科学科

試験時間 (60分)

解答 … 巻末

一、次の文章を読み、以下の設問に答えよ。

徐京植^{ソッキョンシク}〔一九五一―二〇二三〕の批評やエッセイにおいては、ユダヤ人とパレスチナ人の作家・思想家・アーティストが重要な位置を占めている。それは、ユダヤ人がヨーロッパ・キリスト教世界の民族的・宗教的マイノリティであり、迫害を受けた難民的存在だからであり、またパレスチナ人も欧米による分割やユダヤ人の入植・占領によって難民となったり、イスラエルのもとでの民族的マイノリティとなったりしたからである。そうしたユダヤ人やパレスチナ人の生き方や作品が、日本における民族的マイノリティとしての在日朝鮮人[※]である徐に大きな共感^aや示^bサをもたらししたことは、必然的なことだった。在日朝鮮人は、日本による朝鮮の植民地支配を歴史的背景に持ちながら、そのことに対する責任を否認する日本政府や日本社会によって戦後直後から現在に至るまでさまざまな差別を受け続けている。そのマイノリティ性や差別の構造が、たんに日韓関係に規定されているのみならず、世界大の近代史における植民地主義やレイシズムと密接に関わっているという視点を、すなわち「普遍性」を持つ課題であるということを、徐は ア 論じてきたのである。

徐京植は、作家・批評家として出発する前に、韓国で民主化運動に参加して一九七一年に軍事政権に逮捕された二人の兄・徐勝^{ソスン}〔一九四五〕と徐俊植^{ソジョンシク}〔一九四八〕の救援活動にホ^bン走しており、そのあいだに書かれた諸論考は『長くきびしい道のり』（影書房、一九八八年）としてまとめられている。その救援活動が行き詰まり気持ちも沈んでいる中、一九八三年に初めてヨーロッパ旅行で美術館めぐりをしたことで書き始められまとめられたのが『私の西洋美術巡礼』（みすず書房、一九

九一年）である。八三年以降、九〇年に同書の元となる連載を始めるまでに毎年ヨーロッパ各地の美術館を訪問した中で深められた思索の結晶であり、徐京植のライフワークとなる人文紀行の一冊目にして代表作と言える。徐がユダヤ人やパレスチナ人の文学や絵画を論じるようになるのは、それよりも後の九〇年代に入ってからになる。したがって徐京植の批評は、X、
という印象を抱かせるかもしれない。しかし徐の場合はそうではなかった。

*

まず、徐は、高校生の時に日本語訳の出た『フランツ・ファノン集』（一九六八年）をすぐに読むなど、青年期から植民地・第三世界とヨーロッパとを跨[※]ぐポストコロニアルな民族論や差別論に触れてきている。ファノンは、フランス植民地のカリブ海マルティニーク出身で、第二次世界大戦中は宗主国フランスに従軍し、また戦後はフランス留学で精神医学を学び、さらにアルジェリア独立戦争を支持し実際に独立戦争に参加した。植民地出身者が宗主国・ヨーロッパの内部に入りその理論を駆使しながらヨーロッパの植民地主義やレイシズムを批判するというファノンの理論と行動が、徐も含む若い世代の在日朝鮮人らに強く響いたことは想像に難くない。

その時からすでに、「普遍」を求めていた徐京植のヨーロッパに対する独特の眼差しには、ヨーロッパの「他者」が含まれていた、とすることができる。つまり、「普遍」というのはヨーロッパが実際に普遍的だったということでは決してなく、ヨーロッパ内部には国民主義や植民地主義や帝国主義といった暴力を背景とした移民や難民や異教徒などの民族的マイノリ

テイが含まれており、むしろそうした「他者」との関係性（暴力や権力をともなう問題）を反省的に捉え返していった先にこそ
からうじて「普遍」が見いだし得る、そうした意味での「普遍」であるということだ。

徐はのちに一九九〇年代になって、ファノンに続くポストコロニアリズムの代表的な理論家である在米パレスチナ人のエ
ドワード・サイード（一九三五―二〇〇三）[※]から概念を借り、「新しい普遍性」^Aとしてこのことを提示し、在日朝鮮人の民族性
を論じることが帝国と植民地との関係史の批判的乗り越えとなるという普遍的課題、つまりポストコロニアリズムの思想的
可能性につながっていることを示した。サイードは、イギリス委任統治領パレスチナのエルサレムに生まれ、一九四八年の
イスラエル建国によってその故郷を奪われ、そして終生アメリカ合衆国に暮らし英語で書き続ける中で、イスラエルの植民
地主義のみならずアメリカ合衆国の帝国主義についても徹底的に批判し続けた批評家であった。

わたしが以下の論証で強調していきたいことを予示しておけば、徐京植が初めて実際にヨーロッパへ旅行に出かけていっ
たことと、その後の一九九〇年代に徐が重要なユダヤ人作家およびパレスチナ人作家として繰り返し論じることとなるプ
リーモ・レーヴィ（一九一九―一九八七、後述）およびガッサーン・カナファニー（一九三六―一九七二、後述）とに出会ったこ
とは、一九八〇年頃のほぼ同時期であり、またそれらは必然的なことであつた、ということである。

＊

先にも触れたように、徐京植のヨーロッパの美術巡礼の旅は一九八三年に始まる。それは、一九七一年から続く政治犯の
兄二人の救援運動が一〇年以上の期間となつてもなお先行きの見通しもなく、疲弊や絶望などの積み重なつた時期であつ

た。東アジアの片隅での兄二人の投獄および日本にいる徐自身の苦境と、ヨーロッパ文化史との関係を、徐は「出口のない
地下室の天井にある窓」に喩えた。狭い地下室から出ることにはできないが、しかしその外に世界が広がっていることだけ
は、。ただそれだけのことで、窒息しないで息を吸い生き続けることができた、と言う。その
ヨーロッパでの経験と思索とは『私の西洋美術巡礼』（一九九一年）に結実することとなる。

時期はそれとわずかに前後するが、徐京植がホロコースト生還者であるイタリアのユダヤ人作家、ブリーモ・レーヴィに
接したのは、レーヴィの著作で初めて日本語に翻訳された『アウシュヴィッツは終わらない』（「これが人間か」の旧訳）が一
九八〇年に刊行された時であつた。戦争、差別、死刑、虐殺といった深刻な主題が中で、おそ

らく徐はそれまでも多くのホロコーストに関わる作品を読んできたはずであるが、とりわけこのレーヴィの作品が徐を強く
惹きつけたのは、レーヴィが強制収容所でダンテ[※]の『神曲』を囚人仲間にあ唱して聞かせた点だと徐は語っている。すなわ
ち、古代ギリシャ・ローマ神話を下敷きにした中世イタリア・ルネサンス期の作品を現代のイタリア・ユダヤ人のレーヴィ
が読むということは、まさにヨーロッパ古典教養の啓蒙的進歩ⁱそのものを象徴する一方で、しかしレーヴィがそれを読んで
いる場所はそうした人文主義を徹底的に否定し破壊したナチスによるユダヤ人強制収容所であるわけだ。レーヴィはその破
壊の場所で人文主義／人間性（ヒューマニズム）を守り抜こうとしたと言えるし、奇跡的に生還したレーヴィは諸著作を通し
て人間破壊についての証人・証言者になろうとしていたのであつた。徐はそこに自らの経験や、あるいは東アジアの暴力の
歴史からの生還者たちの証言を重ねたであろうし、そのレーヴィの作品を通して、絶望の中にあるわずかな希望と、そして

自らの経験の内にレーヴィにも通じる普遍性を見いだしたことであろう。

＊

しかしそのプリーモ・レーヴィは、徐がレーヴィの諸著作を読み続けているその最中の一九八七年に自殺してしまう。証言者として、人間として、その責務を果たそうと長年にわたって努めてきた末に、それがやはり

Ⅲ

ともみなせる衝撃的な出来事であった。かすかな希望も、新しい普遍性も、ともに消え去ってしまったのであろうか。人間理性を破壊し尽くす狂気の暴力を言語化して証言することはそもそも可能なのか、それを伝えようとしたところで周囲の人々は聞く耳を持つだろうか、聞いたところで人々は真に受けてくれるだろうか。

Ⅳ

レーヴィは自己嫌悪と孤独を深めていったのだろうと推察できる。加えて、ユダヤ人の生還者としてレーヴィは、ますます軍事大国化していくユダヤ人国家イスラエルの蛮行にも批判を表明してきたが、それに対してユダヤ人同胞から「裏切り者」という

Ⅰ

を受け、それがいつそう絶望と孤立を深めていったとも言われている。

しかし徐京植は、このプリーモ・レーヴィの自殺を受けて絶望にたんに同調するのではなく、なおもレーヴィの絶望の正体をも掴むべく、一九九六年にレーヴィの足跡を辿る旅に出ることにした。その時の深い考察が、『プリーモ・レーヴィへの旅』（一九九九年）に結実することになる。一九九〇年代半ばというのは、戦後五〇年を迎えて日本社会でも戦争責任を否定する歴史修正主義が横行し、戦争をめぐる証言の不可能性や人文主義の限界がまさに

Ⅱ

な課題となっていた。だからこそ徐はそこで諦めてしまわずに、またも「天窓」を求めて旅に出たと言えるだろう。

＊

徐京植がその後に積極的に論じていくことになるパレスチナ人難民で作家のガッサーン・カナファアーニーに初めて触れたのも、同じく一九八〇年の頃で、やはり翻訳紹介をきっかけとしてであった。しかしその経路は、プリーモ・レーヴィの場合とは異なり単純な日本語訳の刊行ではなく、韓国での議論が

Ⅴ

していたのだが、そのことはひじょうに重要な歴史的意義がある。

カナファアーニーは、一九四八年にイスラエルが建国された時にパレスチナの故郷を奪われ難民となった。その故郷喪失者・難民としてのパレスチナ人の苦境や不条理を主要な小説作品で描いていくのだが、そのカナファアーニー自身、イスラエルの諜報機関によって一九七二年に暗殺されてその人生を終えてしまう。

このカナファアーニーの作品を含む『現代アラブ文学選』（野間宏編）が日本語に訳されたのが一九七四年で、その日本語訳からの重訳・抄訳が韓国で、『アラブ民衆と文学』（任軒永編訳）として刊行されたのが一九七九年であった。また同時期には韓国でアラブ文学にとどまらず、先述のフランツ・ファノンのほか、マルコムX（米国の黒人解放運動家（一九二五―一九六五））、グスタボ・グティエレス神父（ペルーのカトリック司祭で解放神学の提唱者（一九二八―二〇二四））、チヌア・アチエベ（ナイジェリアの作家（一九三〇―二〇一三））、レオポール・セダール・サンゴール（セネガルの〔初代〕大統領にして詩人（一九〇六―二〇〇一））などが次々と翻訳ないし紹介されていた。それらの動きを論じて白楽晴（韓国の文芸評論家・英文学者、一九三八―）が「第三世界と民衆文学」を『創作と批評』一九七九年秋号に発表し、その論考を含む論集が日本語に翻訳編集されて、

『第三世界と民衆文学——韓国文学の思想』(金学鉉^{キムハクヒョン}編訳)として一九八一年に刊行された。さらに同論考を含む白樂晴『韓国民衆文学論』(安宇植^{アッシュシク}編訳)も翌八二年に刊行された。白樂晴は、その長編の評論で、ガッサーン・カナファアーニーおよびパレスチナの詩人でやはり故郷喪失者であったマフムード・ダルウィーシュ(一九四一—二〇〇八)などのアラブ文学、そしてアフリカやラテンアメリカの文学や思想を、韓国の民族文学論に積極的に接続しようとした。徐はこの白樂晴の論考を通して初めてカナファアーニーを知ったと語っている。

^C ここで注目すべきは、在日朝鮮人の徐京植が、日本語に翻訳されたものから直接ではなく、そこから重訳された韓国における民衆運動・民衆文学論を通じて知った、という点である。アラブ文学、とりわけイスラエルによって占領され故郷を失ったパレスチナ人の文学の意義がより切迫して受け止められたのが、日本ではなくむしろ韓国であったということは、まさに東アジアの植民地の歴史を振り返ると必然的であったと言えよう。日本社会のポストコロニアリズム思想が血肉化されておらずいかに皮相ⁱⁱであったかを物語っている一方で、植民地支配の清算と軍事独裁への抵抗を目指した民主化運動の最中にあった韓国でこそ、パレスチナ文学は深く響き合ったのであった。さらにその韓国でのアラブ・パレスチナ文学受容から、在日朝鮮人の知識人が言わば「逆輸入」的に学び取ったことで、民衆・民族文学の普遍的意義が日本でも論じられるようになっていった。この経路の複雑さと重要さはとりわけ強調しておきたい。

*

さて徐京植は、在日朝鮮人の「ディアスポラ〔離散〕的自己認識」を築くうえで、このパレスチナ人作家のガッサーン・カナファアーニーおよびパレスチナ出身の批評家エドワード・サイードに多くを負ってきたと語っている。国境に囲まれた領土を失ってもなお「民族」アイデンティティを肯定していること、しかもその民族とは血統の継承や文化的同一性に基づくのではなく、植民地主義や人種差別に対する抵抗の意志と オ の中に見いだしていること、徐の朝鮮民族論の特質はまさにここにある。単純な実体的な民族主義ではないが、逆に民族性の否定でもない。国民的マジョリティにはなかなか理解されないことだが、その両者のあいだにしか見いだせない細く険しい道を徐は進もうとしてきたのである。

*

こうして徐京植がガッサーン・カナファアーニーを韓国の民衆文学論経由で読み始めたのが一九八〇年頃で、それがプリーモ・レーヴィを読み始めた時期とほぼ同時であり、また徐が最初のヨーロッパ巡礼に向かう直前であったことが確認できた。すなわち、徐にとっては、政治犯の兄二人の救援運動一〇年の疲弊と行き詰まりの時に、その「地下室」からヨーロッパという「天窓」を求めていったのと、それと同時に二人の作家——ヨーロッパがもたらした最悪の破滅を「人間」としてなお問い直そうとする生き残りのユダヤ人作家と、ヨーロッパのユダヤ人入植者によって故郷を奪われたパレスチナ難民の作家——を読み始めたことは、全てが絡み合いながら同時進行していた。

それが徐京植独特の批評として具体的に展開され始めるのは、救援運動が兄二人の解放でもって一九九〇年にいちおうの終わりを遂げ、日本を含む東アジアが同時に「冷戦後」を迎えた九〇年代に入ってからのことであった。それは日本社会にとっては、一方で「戦後五〇年」をアジア各地との関係でどのように受け止めるのかということが問われた時期でもあり、

他方で昭和天皇が一九八九年に死去し、「平和主義者」と持ち上げられる平成天皇が即位したことで日本の戦争責任がいつそう曖昧化され始めた時期でもあり、さらに、バブル経済が崩壊し日本経済が余力を失って社会が反動化していく時期でもあった。徐の批評が特別なポジションを持って読まれるようになったのは、在日朝鮮人の視点から戦争責任・植民地責任を追及する徐の議論の鋭さのためだけではないだろう。それは徐が「東アジア―ヨーロッパ」あるいは「東洋―西洋」という対抗軸の中にそれを超えた「普遍」を求め、さらにその「普遍」の探求の過程にユダヤ人とパレスチナ人という「他者性」を取り入れていたからであり、その「他者性」がヨーロッパに内在する破壊の暴力およびそれに対する抵抗の カ であるということ、世界的な視野から批判的に描いていたからでもあった。すなわち、植民地主義を引きずっている日本という国家と、その カ として存在している在日朝鮮人との関係、その両方を世界的視野のうちに収めた「新しい普遍性」が、徐の批評の中で広く深く展開されていたのである。

(早尾貴紀『パレスチナ、イスラエル、そして日本のわたしたち』による。ただし出題に際して一部表記・表現を改め、省略した箇所がある。また、「カ」で括った箇所に語句を補った。)

※ 在日朝鮮人＝著者は「日本に在住する朝鮮半島の出身者の呼称については、「在日朝鮮人」以外にも「在日韓国・朝鮮人」「在日コリアン」などもあり、何を選択するのかにその政治的な立場性も表れる」とし、そのうえで「徐京植自身が用いていた「在日朝鮮人」を使用する。徐は、南北分断体制以前の朝鮮全体を指すものとして「朝鮮」を用い、またその出身者を包括する呼称として「朝鮮人」を用いている。またそのことで徐は、在日朝鮮人が日本による植民地支配に由来していることを示そうとしている」という。本文もこれに即してこの呼称を用いている。

※ ポストコロニアル＝ポストコロニアル理論を簡略的に言いかえた言葉。ポストコロニアル理論とは、植民地主義や帝国主義の文化、政治、経済的遺産を批判的に研究するためのものである。

※ アルジェリア独立戦争＝一九五四年から六二年にかけて主にフランス領アルジェリアで勃発した、フランスと、その植民地支配に対抗するアルジェリアとの間の独立戦争。アルジェリア側の勝利に終わり停戦後にアルジェリアは独立を達成した。

※ 概念＝エドワード・W・サイード『故国喪失についての省察一・二』（大橋洋一ほか訳、みすず書房、二〇〇六、〇九年）に記述がある。

※ ダンテの『神曲』＝一三世紀から一四世紀にかけてイタリアの詩人であり政治家であるダンテ・アリギエーリが作った長篇叙事詩のこと。

問(一) 傍線部 a「示サ」、b「ホン走」について、同じ漢字が使われている語を次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号をマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| a | 示サ | 1 | 教サ | 2 | 煩サ | 3 | 落サ | 4 | 連サ |
| b | ホン走 | 1 | ホン放 | 2 | ホン当 | 3 | ホン意 | 4 | 謀ホン |

問(二) 空欄ア～カに当てはまる最も適切な語句として最も適切な語句を次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号をマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|---|------|
| ア | 1 | 一貫して | 2 | 曲解して | 3 | 洗練させて | 4 | 敷衍して |
| イ | 1 | 選択 | 2 | 反論 | 3 | 非難 | 4 | 符合 |
| ウ | 1 | 孤独 | 2 | 切実 | 3 | 唐突 | 4 | 面倒 |
| エ | 1 | 介在 | 2 | 交通 | 3 | 潜在 | 4 | 連絡 |
| オ | 1 | 思想 | 2 | 実践 | 3 | 真理 | 4 | 哲学 |
| カ | 1 | 帰結 | 2 | 照準 | 3 | 媒介 | 4 | 変換 |

問(三) 空欄Xに当てはまる最も適切な文を次の中から一つ選び、番号をマークせよ。

1 パレスチナ人の文学や絵画にみられる、ユダヤ人の入植活動への抵抗の軌跡を徐が知る過程で、ヨーロッパ内部のマイノリティであるユダヤ人の芸術における抵抗の軌跡も発見し、さらにその軌跡に在日朝鮮人としての生のありようを見た

2 ユダヤ人の入植が生み出したパレスチナ難民への関心が高く、それにもかかわらずヨーロッパ内部のマイノリティであり他者であるユダヤ人を無視することはできず、同時にヨーロッパ文化への興味の度合いも高まった

3 ヨーロッパ各地の美術館にヨーロッパ内部のマイノリティであるユダヤ人の作品が置かれていないことが、徐の出自に関わる重要な問題であり、それと同時にユダヤ人の入植によって奪われたパレスチナ人の芸術への関心が高まった

4 ヨーロッパ文化からまず入っていく、後から、その中でヨーロッパ内部のマイノリティであり他者であるユダヤ人を見いだし、さらにヨーロッパから排斥されたユダヤ人のパレスチナへの入植が生み出したパレスチナ難民を見いだした

問(四) 傍線部A「このこと」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、番号をマークせよ。

- 1 帝国主義や植民地主義といった思想を芸術にまで反映させてしまったヨーロッパの提示する「普遍」は虚偽であることを理解して、真の「普遍」に到達しようとする意志。
- 2 帝国と植民地との関係についての歴史を正しく提示するためにも、民族的マイノリティに正しく向き合ってきたヨーロッパの「普遍」をあらわす芸術を受け取ろうとする意志。
- 3 民族的マイノリティへの暴力と帝国主義の正義は異なる性質のものであることを歴史的に記述してきた、ヨーロッパの思想や文学における普遍性をあらためて尊重する態度。
- 4 ヨーロッパ内部には暴力に由来する民族的マイノリティの存在があり、その存在を「他者」としてつくり出したことと切り離せないものとして、ヨーロッパで重んじられる「普遍」があるという認識。

問(五) 空欄Ⅰ～Ⅳに当てはまる最も適切な表現を次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号をマークせよ。

- I 1 地下室から脱出すればわかる 2 地下室の狭さを把握すればわかる 3 天窓から垣間見ることができる 4 天窓がなかったとしてもわかる
- II 1 思想的には向き合うことが難しかった 2 実存的に身に迫った課題であり続けた 3 成長のために思考を強いるものだった 4 専門的な知識を使うことで理解されてきた
- III 1 自分自身を追い詰める「絶対的な事実」 2 不可逆だと痛感される「歴史的な流れ」 3 不可能だと観念した「究極的な絶望」 4 身をもって果たされねばならない「証言」
- IV 1 この幾重にも重なる不安と疑念 2 この終わることのない怨恨と怒り 3 どこにいても消えない不信と諦念 4 とどまることのない落胆と混乱

問(六) 傍線部B「レーヴィの作品が徐を強く惹きつけた」とあるが、その理由を説明したものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、番号をマークせよ。

1 人文主義／人間性（ヒューマニズム）が政治によって壊された場所で、当のその主義を培い、描き込んでいる作品を、居場所を奪われた人びととともに読むという極限の状態をレーヴィが生きたから。

2 思想の影響を受けていないものを作品としてきたイタリアの人文主義／人間性（ヒューマニズム）が、一方でナチスによる芸術への政治的介入を促してしまったことをレーヴィの極限状態が示したから。

3 政治によって壊されないものとしてあるはずの人文主義／人間性（ヒューマニズム）が、ナチスによるユダヤ人の強制収容所においてあっさり壊れてしまうものだとすることをレーヴィが示したから。

4 ヨーロッパ中心につくられてきた人文主義／人間性（ヒューマニズム）を的確に表現する芸術作品を、中世イタリア・ルネサンス期の人びとがつくれなかったということを、レーヴィの生き方が示してしまったから。

問(七) 傍線部 i「啓蒙」、ii「皮相」を別の表現で言いかえた場合、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号をマークせよ。

i 啓蒙 1 拡散 2 教化 3 伸張 4 発達

ii 皮相 1 上辺 2 受動 3 表明 4 実感

問(八) 傍線部C「ここで注目すべきは、在日朝鮮人の徐京植が、日本語に翻訳されたものから直接ではなく、そこから重訳された韓国における民衆運動・民衆文学論を通じて知った、という点」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、番号をマークせよ。

1 アラブ・パレスチナ文学の日本での受容は、ヨーロッパの人文主義を絶対とする知識人によって、日本社会での知の形成を反省する手段とされてしまったと言え、そのような文学の受容の問題点に気づいた徐の感性に注目すべきだということ。

2 イスラエルに占領され故郷を失ったパレスチナ人の文学は、ヨーロッパでは正しく評価されてこなかったと言え、その評価基準に則したがゆえに、アラブ・パレスチナ文学を理解できなかった日本の知識人の限界を鋭く指摘した徐の批評性に注目すべきだということ。

3 暗殺されてしまったカナファアーニーの作品は、その思想性ゆえに軍事独裁政権下の韓国では、大々的に紹介できなかったと言え、それでも韓国の民衆・民族運動を担う文学者が韓国語翻訳を敢行したことに共鳴した徐の政治性に注目すべきだということ。

4 植民地として支配された過去を自ら清算するとともに、軍事独裁政権下の民主化運動のさなかにあった韓国でのアラブ・パレスチナ文学の受容には、民衆・民族文学の普遍的意義への期待があると言え、その受容に対する徐の知的反応に注目すべきだということ。

問九 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び、番号をマークせよ。

1 在日朝鮮人として日本社会を生きた徐京植の批評やエッセイは、とりわけ一九九〇年代以降において、その独自性が際立つと言える。ポスト冷戦後の日本社会が、かつての戦争責任をめぐる問題で議論の質を悪化させた局面で、世界の「他者」とされた者たちの言葉を通して、対立を超える「普遍」を求めたからである。

2 「西洋―東洋」という二項のうち、「西洋」に「普遍」があることが定説である。しかし、専門的に規定されてきた学説を疑い、むしろ「東洋」の側の視点で「西洋」を「他者」として見出すことができれば、他人に排斥的であることをよしとする社会を変えることもできる。徐京植は、そのことを目的として批評を発表した。

3 民族的マイノリティのアイデンティティは、文学や思想といった芸術作品をとおして確かなものとなる。そのことを確信した徐京植が残した仕事は、民族的マイノリティが、国家によらずとも共同体を形成し、そうしながら国家に構成されない社会の一員として生きる者にとってこそ読まれるべきものである。

4 ユダヤ人、在日朝鮮人、パレスチナ人として生きることとは、同一の経験を生きることだった。その人びとは故郷を奪われ、世界のあらゆる場所に離散させられたという意味で世界の「他者」となった。その人びとの経験を描き出す文学作品の数は少なく、徐京植がそうしたように、それらは新しい芸術として発見、翻訳されるべきである。

二、以下の問(一)～(三)の設問に答えよ。

問(一) 次の各文について、傍線部の漢字には最も適切な読みを、カタカナには最もよく該当する漢字を、それぞれ後の1～5の選択肢から選び、番号をマークせよ。

① 責任を厳しく糾明する。

1 ふんめい 2 しゅうみょう 3 きゅうめい 4 かんみょう 5 しゅうめい

② その肩書きは形骸化している。

1 けいい 2 けいがい 3 がいこつ 4 ぎょうい 5 ぎょうがい

③ 政治家が各地を遊説する。

1 ゆうせつ 2 ゆせつ 3 ゆぜつ 4 ゆうぜい 5 ゆうだ

④ 格子戸を開けて声を掛ける。

1 かくし 2 きゃくし 3 こうし 4 かつこ 5 きゃっこ

⑤ 行く手をハバむ。

1 留 2 駐 3 止 4 幅 5 阻

⑥ 先祖の^アヤマ^チをつぐなう。

1 障 2 科 3 過 4 謝 5 誤

⑦ ^{コウキン}作用があるまな板を使う。

1 効禁 2 抗菌 3 巧均 4 効菌 5 拘禁

⑧ ^{ホウビ}を用意しておく。

1 包備 2 訪日 3 賞比 4 報被 5 褒美

問(二) 文中の空欄ア～シに入る最も適切な表現を、それぞれ後の1～20の選択肢から選び、番号をマークせよ。(同じ番号を重複して選ばないこと。)

藤原北家が^{せつしやう}摂政・^{かんぱく}関白となり天皇を強力に補佐した政治形態を摂関政治と呼ぶが、特に九六七年以降の約百年は摂関が基本的に常置され(後期)摂関期と称される。天皇との個人的な人間関係が貴族社会における最優先の構成論理となつたこの時期に、^{キサキ}后妃を介して天皇のミウチとなることは極めて重要で、後宮政策の^アは摂関等の人事、ひいては政治そのものに直結した。

摂関期以前の皇后は所生子(孫)の皇位継承が決まってから立后されたが、摂関期には子の^イ以前に立后されることが通例となる。皇后がもつともその価値を発揮するのは皇位継承においてであり、皇后所生子は「^{キサキ}后腹」と言われ圧倒的に有利であつた。皇后位は所生子の皇位継承を約束するものであり、所生子の天皇位、ひいてはその即位後における後の親兄弟の摂関位を^ウするものであつた。そのため貴族にとって娘を^{じんだい}入内させ皇后にすることはもつとも^エな政権獲得方法であつた。一方、天皇にとつても有力な^オを持つ皇子の誕生は重要である。自分の子孫が皇統からはじかれなかったためには有力貴族の娘との間に皇子を儲ける必要があつたのである。さらに天皇と摂関が親密であることは摂関政治の^カにつながるため、現摂関や母后に近い娘であるほど入内や立后に対して貴族社会の^キが得やすく、所生子にも^クが集まりやすかつたと思われる。

つまり、摂関期の皇后は夫天皇と ケ の親密性を増すための コ となることが期待され、何よりも皇位継承者を生み、次代もその関係性が続くよう母后となることが望まれていたのである。

「国母」の本来の語義は天下の母としての皇后を指し、日本の初出例も同様であった。しかし摂関期においては、天皇生母こそが国の母であった。

特に幼帝の場合は内裏だいりで同居し、行幸時は輿こしに同乗し、即位式では大極殿だいごくでんの高御座たかみくらにも同座するなど天皇の直接的なオ オ を担った。もちろん天皇成人後も内裏に住むことも、自由に出入りすることも可能である。天皇にサ サ を及ぼせる唯一の存在となる父院崩御後に母后の力が増すのは間違いないが、父院は内裏に入ることができないため、天皇の身近で影響力を及ぼせるのは母后のみの特権であった。

また、キサキ決定権をもち入内・立后に関して母后の許可は必須であった。そのため母后の一族から次の皇后が立ち、次の天皇を生み母后となるという シ が生まれた。母后の意は直接、あるいはミウチの摂関等を通して大きな影響力を発揮したのである。

（東海林亜矢子「摂関期の後宮」による。ただし出題に際して表記・表現を変更し、一部省略した箇所がある。また「シ」は出題者による補記。）

1	誕生	2	婚家	3	親権	4	実家	5	支持
6	予約	7	留保	8	適正	9	正否	10	安定
11	順当	12	評価	13	紐帯	14	成否	15	アドバンテージ
16	コンセンサス	17	循環	18	連環	19	後見	20	監視

問三 次の①～④の四字熟語の空欄に入る字を、それぞれ後の1～8の選択肢から選び、番号をマークせよ。（同じ番号を重複して選ばないこと。）

- ① 一目 然 ② 荒唐無 ③ 臥薪 胆 ④ 曲学 世

1	昏	2	賞	3	稽	4	瞭
5	嘗	6	阿	7	警	8	直

令和8（2026）年度

全学統一入試：中期

国語

[illegible]

全学統一入試

(中 期)

英 語

令和 8 (2026) 年度

試験学科
経営学科
ホスピタリティ・マネジメント学科
データサイエンス学科
経済学科
法律学科
国際関係学科
多文化コミュニケーション学科
現代社会学科
健康スポーツ科学科

試験時間 (60分)

解答 … 巻末

I. 次の1～10の英文の下線部の内容に最も近いものを、①～④からそれぞれ1つずつ選び、マークしなさい。

1. The sun rises in the east.

- ① descends ② appears ③ covers ④ attends

2. I wonder what changed the jury's mind at the last minute.

- ① right before the end ② middle of the end
③ just on time ④ after the deadline

3. Will took off his helmet before the bomb exploded.

- ① faced ② unlocked ③ released ④ removed

4. You must not enter the lab without permission.

- ① don't have to ② aren't allowed to
③ aren't willing to ④ might not

5. Could you pass me the salt?

- ① hand ② pull ③ cough ④ emerge

6. She used to live in the countryside, but now she lives in the city.

- ① is used to living ② became less common
③ formerly lived ④ has a living room

7. It is high time we were leaving.

- ① only time ② small time
③ beside time ④ about time

8. I propose that Mary run for mayor.

- ① stand for ② rush to
③ pay equal amount to ④ solve about

9. The room was cleaned by the staff in an hour or so.

- ① way too late ② all of a sudden
③ in about an hour ④ right before our eyes

10. By the time we arrived at the station, the bullet train had already left.

- ① Already ② When ③ Having ④ Will

II. 次の1～10の英文の（ ）内に入るものとして最も適当なものを、①～④からそれぞれ1つずつ選び、マークしなさい。

1. Tom left the room ().

- ① has smiles ② smiled ③ smiling ④ had smiled

2. You lived in Tokyo for (), didn't you?

- ① a time ② timeless ③ times ④ timing

3. () likely that John will read the letter.

- ① There are ② It is ③ Their is ④ Its

4. Tasks performed in dark environments () carried out with sufficient caution.

- ① must be ② let it be
③ need not being ④ would been

5. If he had begun studying a little earlier, he () the exam without any problems.

- ① would past ② would have passed
③ passed ④ had passing

6. The final decision on the matter () by the board members during the next meeting.

- ① will be made ② was making
③ decide ④ will decide

7. Two plus three () five.

- ① are ② is ③ were ④ has

8. The café () I often go with my family is becoming famous.

- ① where ② how ③ what ④ who

9. The twins insisted that they () to visit the library the following Sunday.

- ① wanting ② wants ③ wanted ④ want on

10. I had the mechanic () the air conditioner before the guests arrived.

- ① rolled ② person ③ grew ④ fix

Ⅲ. 次の会話文の (A) ~ (F) に入るものとして最も適切なものを、
①～④からそれぞれ1つずつ選び、マークしなさい。

Mary walked into the classroom and started talking with Tom.

Mary : Good morning, Tom. It is really hot outside!

Tom : Good morning, Mary. Oh, you're sweating. Are you okay?

Mary : Yeah, thanks. I (A) now that I'm in this air-conditioned room.

Tom : I actually came early to turn on the air conditioner for you.

Mary : You're an angel, Tom. Thank you.

Tom : You're welcome. (B), we really need to do something about global warming.

Mary : I couldn't agree more.

Tom : The huge difference between the temperature outside and inside is exhausting.

Mary : Speaking of that, the room felt nice at first, but now, I think it's actually (C) in here.

Tom : Really? I thought the temperature was just right.

Mary : What's the setting on the AC?

Tom : I set it to 22 degrees.

Mary : That's too cold for me. I usually set mine to 28 at home.

Tom : Wow, that's way too hot for me.

Mary : Maybe we can (D). How about 25 degrees?

Tom : 25? That might work. And maybe I'll take off this jacket.

Mary : Good idea. I'll put on a light sweater (E) too cool for me.

Tom : Would you mind turning on the fan to circulate the air?

Mary : Not at all.

Tom : Okay. Let us talk about what we can do to fight global warming in a comfortable environment (F).

(A) ① feel much better ② left much earlier

③ assume already warm ④ am more tired

(B) ① However partially ② Although literally

③ As traditionally ④ But honestly

(C) ① quite nice ② even more

③ too cold ④ too hot

(D) ① step half way through ② meet in the middle

③ turn on the corner ④ both take again

(E) ① nor will I find ② if it gets

③ and never again ④ unless it is

(F) ① for both of us ② just for him

③ for last of us ④ for only of us

IV. 次の一連の英文に関する 1～7 の質問の答えとして最も適切なものを、①～④ からそれぞれ 1 つずつ選び、マークしなさい。

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

1. According to the passage above, which is true?
- ① Water shortage is an issue limited to developing countries.
 - ② Water scarcity is getting worse due to human-made causes.
 - ③ By 2025, all countries will experience absolute water scarcity.
 - ④ Students in the western region are encouraging water scarcity.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

2. According to the passage above, which is true?
- ① Proflo is a system that increases hotel water usage for guests' comfort.
 - ② Ogunmekan's team designed a system that works only with electricity from the grid.
 - ③ Proflo helps reduce water waste and costs in hotels using solar power and reverse osmosis.
 - ④ The Sustainable Hospitality Challenge did not take place in Bangkok.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

3. According to the passage above, which is true?

- ① Hotels often consume large amounts of water for tasks like washing and cleaning.
- ② Water usage in hotels among Asian countries is sustainable and efficient.
- ③ Hotels generally use less water than the surrounding local populations.
- ④ The hotel industry is moving away from water-stressed regions like China and Southeast Asia.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

*photovoltaic 「ソーラー」

4. According to the passage above, which is true?

- ① Proflo must be installed and maintained by outside specialists.
- ② The Proflo system runs entirely on electricity from the local power grid.
- ③ The School of Business and Law encourages students to think only about campus sustainability.
- ④ The Proflo system was designed to be affordable and maintainable by hotel staff using solar energy.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

5. According to the passage above, which is true?

- ① ECU's School of Business and Law ranks first in the world for Hospitality and Tourism.
- ② Sustainable development is not the focus at ECU according to Mostafa Rasoolimanesh.
- ③ ECU is ranked within the top 300 universities worldwide by Times Higher Education.
- ④ Mostafa Rasoolimanesh has been teaching engineering at ECU.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

6. According to the passage above, which is true?

- ① Lundy believes business education should focus more on knowledge and skills.
- ② Lundy believes that inclusion and diversity do not cultivate sustainable practices.
- ③ Lundy discourages students from thinking about environmental impact in tourism.
- ④ Lundy thinks that social and environmental responsibility should be balanced with profit.

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

7. According to the passage above, which is true?

- ① Ogunmekan believes sustainability should be handled mainly by industry leaders.
- ② Ogunmekan's goal is to raise awareness and involve everyone in creating solutions.
- ③ Ogunmekan plans to work alone to address sustainability issues.
- ④ Ogunmekan thinks the hospitality industry is already fully sustainable.

V. 英文を読み、設問に答えなさい。

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

※問題文は、
著作権の関係上、
掲載しておりません。

問 1. (A)～(E)に入るものとして、最も適切なものを①～④からそれぞれ 1 つずつ選び、マークしなさい。

- (A) ① has ② haven't ③ had been ④ has gone
- (B) ① Fundamentally ② Seldom
③ Absolutely ④ Eventually
- (C) ① justifying ② meaning ③ committing ④ enabling
- (D) ① accepted ② told ③ looked ④ restricted
- (E) ① right ② disappear ③ true ④ wrong

問 2. 次の設問の答えとして、最も適当なものを、①～④からそれぞれ 1 つずつ選び、マークしなさい。

1. According to the passage above, what is true?
- ① Texas and Washington have many schools that support students with problems.
 - ② Each year, about 4.2 million young people in the US experience homelessness.
 - ③ Washington and Hogan were both bullied in high school and overcame it.
 - ④ When he was in seventh grade, Washington started playing baseball.
2. What is the most appropriate title for this article?
- ① The Government Must Support Homeless People by Increasing Taxes
 - ② Millions of Homeless Adults Lack a Sense of Family Connection
 - ③ “I Had to Give Up My Schooling Because of Money,” Says US High School Graduate
 - ④ “Homelessness Taught Me That People Do Offer Help,” Says US High School Graduate

I.	各2点	1. ②	2. ①	3. ④	4. ②	5. ①	6. ③	7. ④	8. ①
		9. ③	10. ②						
II.	各2点	1. ③	2. ①	3. ②	4. ①	5. ②	6. ①	7. ②	8. ①
		9. ③	10. ④						
III.	各3点	(A) ①	(B) ④	(C) ③	(D) ②	(E) ②	(F) ①		
IV.	各3点	1. ②	2. ③	3. ①	4. ④	5. ③	6. ④	7. ②	
V.	各3点	問1	(A) ①	(B) ④	(C) ②	(D) ①	(E) ④		
	各3点	問2	1. ②	2. ④					
[100点満点]									